

令和2年度 第3回平田地域協議会会議録（要約）

日時	令和2年11月12日（木）午後2時30分～午後4時00分		
場所	ひらた生涯学習センター 研修室		
出席委員	13名		
	1号委員	石井 光一 田中井広志 佐藤 美恵 高橋 弘弥	
		前田 恵次 長谷部耕次（会長） 今井さち子	
		今井 宣幸	
	2号委員	高橋美人貴 石黒 由香（副会長） 高橋 栄子	
		須田 祐司 長堀 恵理	
欠席委員	2名		
	1号委員	熊谷 一志 丸山 清	
酒田市出席者	酒田市長	丸山 至	
	市長公室長	金野 洋和	
	危機管理課長	前田 茂男	
	都市デザイン課長	高橋 紀幸	
	交流観光課長	阿部 利香	
	市長公室次長	齋藤 浩二	
	市長公室 広報広聴係主任	國松 真也	
	まちづくり推進課 課長補佐	松永 隆	
	まちづくり推進課 地域づくり係主事	讃岐 祐香	
	平田総合支所長兼地域振興課長	山口 貴明	
	平田総合支所 建設産業課長	佐藤 まゆみ	
	建設産業課 課長補佐兼産業係長	中條 和志	
	地域振興課 課長補佐兼地域振興係長	高橋 美津	

傍聴者 なし

- 議事日程
1. 開 会 山口支所長
 2. あいさつ
 - (1) 会 長
 - (2) 丸山市長
 3. ミーティング
 - (1) 十二滝の周辺整備について
 - (2) その他
 4. 閉 会 山口支所長

【協議会の概要】

市長と十二滝周辺視察後にグループミーティングを行い、意見交換したもの

【会議録（要約）】

1. 開 会

▶山口支所長

皆様大変お疲れ様でした。現地確認を頂きましてありがとうございます。平田生涯学習センターに戻りまして、市長とのグループミーティングを開会します。

まず、はじめに、長谷部会長からごあいさついただきます。

2. あいさつ

▶長谷部会長

皆さん、現場まで行っていただいてご苦労様でした。この度は酒田市長からおいでいただき感謝申し上げます。以前も市長から現場を見て頂き、この生涯学習センターの修繕をしていただきました。今日見て頂いた現場が前回の生涯学習センターの修繕のように簡単にいくものではないと思います。さきほど現地でお話したように、国、県、酒田市、そして地元住民が連携して、百名瀑の一環としてこの地域を守っていくために力を貸していただきたい。今後ともよろしく願います。

▶山口支所長

続いて、丸山市長願います。

▶丸山市長

グループミーティングということで、平田地域協議会の皆さんと話し合える場を設けていただきありがとうございました。十二滝の現場を見せていただき、改めて平田地域のいい資産だと感じました。これを活かすとなると、知恵を出すことが必要だという思いがありましたが、このグループミーティングが充実した時間になるものではないかと期待しています。皆さんの生の声が伝わり、十二滝の吊り橋を現地で見て、ただ撤去するよりも何か国の支援制度等を利用して環境整備ができればいいのではないかと、交流観光課長と話しました。そのうえで地域の皆さん、国・県とも手を組んで、整備資金を引き出していきたいと思っています。コロナ対策で国からも予算が来ますが、用途が一定程度限定されており、これが来年度以降見込めないと我々が自由に使えるお金の嵩によって十二滝に手をかけられるかどうかということが決まってくると思います。

今年は、PayPay（30%割引が3か月間）というものをやっていて、市が負担するお金は2億円位かと思っておりましたが実は8億円くらい使われているということで、今度補正をします。ものすごく評判が良く、還元率が良くて事務費も安く、地元に戻元されるものなのでぜひ使ってほしいと思います。コロナ対策の支援策が国や県、市とごちゃごちゃになって分かりにくいと思いますが今年はコロナ禍を乗り切るということで、パワーを蓄える年かなと思っています。こういった会は非常に大切で、平田地域協議会のように現場まで組み込んでミーティングする例がありません。切実さが伝わってくるし、それが施策につながっていきます。意欲、熱意のある方と一緒に手を組んでいろんな仕掛けをやっていきたいというのが私の市政運営の基本です。引き続き来年以降もこういったグループミーティングで対応していただいて地域の課題解決に役立てていただければ、この地域協議会の存在意義というもの大きいと思います。今日は私だけでなく主要な課長が参加しており、質問に対して答弁をするというだけでなく、意見交換をしたいと思っています。どうぞよろしく願います。

▶山口支所長

ありがとうございました。

進行の方は、長谷部会長にお願いいたします。

3. ミーティング

(1) 十二滝の周辺整備について

▶長谷部会長

本日のミーティングのテーマとして十二滝を見てきた訳ですが、何か意見のある方は述べてください。

▶田中井広志委員

自分は東陽コミ振で経ヶ蔵・十二滝トレッキングガイドとして関わっており、事業継続の立場から発言させてもらう。

十二滝の遊歩道、周辺の維持管理については、昨今の登山ブームと経ヶ蔵山が県の百名山に指定されたことにより、経ヶ蔵山と十二滝を訪れる方が増えている。平成28年の豪雨災害で十二滝へ通じる市道が平成31年まで全面通行止めになったため、その間、十二滝周辺の施設の保安全管理に大きな影響が生じた。市道復旧後に東陽コミ振と平田里山の会と共に山形県からの補助を活用し、遊歩道の整備を行ってきた。共同作業による草刈り、雑木伐採などの環境整備活動に対する労力提供も地域住民の高齢化に伴い思うように運ばない状況になりつつある。そのため、酒田市として維持管理に対する予算を設けていただきたい。また、遊歩道の再整備を実施し家族連れや、高齢者も安心して景観を楽しめるようにして頂きたいと考えている。

▶丸山市長

地域の皆様からは、遊歩道を含む周辺施設の維持管理にご尽力いただき感謝申し上げます。

手すり、段差は市としても手をかけた経緯はある。また、草刈り等の作業にも年間30万円程度の予算措置は行っている。どちらも十分とは思っていないが、お話にあった労力提供、マンパワー不に関しては、酒田市全体で同じような状況が生じている。中小河川の周辺での草刈り、支障木処理などの維持管理に関しては、部分的に業者委託という形を考えざるを得ない状況とと思っているが、財政との兼ね合いを測りながら進めていきたい。

その中で、十二滝整備に関しては観光資源として大規模な整備を行うことは難しい。登山道整備の一環として手をかけていくことになる。鳥海山・飛鳥ジオパークが4年に一度の認定更新を迎えているが、酒田市としてはユネスコ世界ジオパーク登録を目指そうという思いでいる。そのジオサイトのひとつとして十二滝も位置付けられており、ジオパーク関連として本来の自然環境に配慮した十二滝らしい整備のあり方を探していきたいと考えている。

ジオパークは本来、教育・ツーリズムを活用しながら、持続可能な開発を進める地域認定プログラムなので、日本ジオパークの認定を受けつつ、さらに高いレベルの地域活動を目指そうとしている。十二滝周辺に関してもジオサイトとしての位置づけを加味し、息の長い継続的な地域活動にご協力をいただきたい。

▶阿部交流観光課長

十二滝は昨年ジオサイトに加えられた。10月に行われたジオパーク再認定調査の折も教育等観点から調査委員の高評価を受けている。飛鳥にある流紋岩と十二滝を構成する流紋岩との関わりから、この地域が火山活動に伴う地殻変動で生成された実証として地域教育に生かしていきたい。地元の方々からも教育的観点からの活動にご協力を願いたい。

▶丸山市長

酒田・飽海の地域資源を見渡すと、世界になにと呼ばれるようなものは、鳥海山を中心とした自然環境しかないという思いで活動し、4年前に日本ジオパークのひとつに認定された。遊佐町、にかほ市と協議を進める中で、酒田市としては飛鳥をパーク地域に含むよう申し入れた。その結果、離島と火山が結びついた稀な自然環境としての評価を受けている。そのジオサイトのひとつとして十二滝も位置付けられているので、日本から世界へ目指す中で十二滝の整備も見えてくるのではないかと考える。その際の整備は便利な観光地という形ではなく、自然環境を生かしたものになると予想している。この件に関しては何年か先になる息の長い活動が必要と思っているので、できれば早い時期に十二滝の吊り橋は撤去できればなあと考えている。

▶長谷部会長

十二滝は古から地元の信仰を基に守られてきたものであるということは、皆さんご理解いただけたと思うが、管理管轄が林野庁であるということも忘れずに対処してほしい。ほかにご意見はないか。

▶須田祐司委員

自分はNPO法人平田里山の会から委員として参加している。

毎年、「中秋の経ヶ蔵・十二滝ツアー」を企画し、本年は11月7日に55名の参加者を迎え、開催できた。里山の会ではこの生涯学習センターをベースキャンプとして、市内小学区の校外学習の一環として「ふるさと自然教室」の企画運営を行っている。その中でも十二滝や経ヶ蔵を案内することがしばしばあるが、現地で見てもらったとおり遊歩道対岸にあった滝見台が平成22年度の豪雨災害で崩落し、滝を見るには吊り橋の下をくぐって行く方法以外にない状況のため、危険が生じている。今後、経年劣化により、たまたま通りかかった人を巻き込んで事故を起こす前に、撤去をお願いしたい。先ほど市長から早めの撤去を計りたいとの発言を頂戴したが、ぜひ、そのように計画して頂きたい。

▶丸山市長

林野庁が関わってくるとの話があったが、ご心配の点については事前の協議を進め、可能であれば吊り橋撤去に関して何らかの支援をしてもらえるような方策を考えて行きたい。

令和3年度で手を付けるのは難しいかもしれないが、撤去の方向で進めることについては、私も同じ思いなので、もう少し時間を頂戴したい。

(2) その他

▶長谷部会長

市長からは前向きなありがたい発言をいただき、感謝する。

十二滝に関わらず、他にご意見はないか。

▶佐藤美恵委員

私は郡鏡コミュニティから参加している。公共交通のことで先行きが不安。現在の平地地域の公共交通の進捗を伺いたい。酒田市の公共交通は、デマンドタクシーの案が進められているようだが、毎日の運行ではなく行き先も固定されており不便さを感じ利用者が増えないのではないかと考えられる。これでは、高齢者の免許返納遅れが起きるのではないかと懸念されるため、利用者を増やす工夫をし、利用料も500円よりも少し下げられれば、なお住みやすい街に近づくのではないかと感じている。地元で暮らすと80歳以上の方がまだまだ運転を続けている。その方たちの声を聴くと無理して運転しているようだ。またアイアイ平田線は今後どうなるのか。酒田市に観光で訪れた方が、例えば、十二滝や旧阿部家に行きたいと思ったときに、バスがなくなれば不便ではないかと感じる。他の自治体では、NPO法人やコミ振が主体となって公共交通を運営しているというニュースを聞いたが、酒田市ではデマンドタクシー以外に他の例を考えたいという考えでデマンドタクシーを選択したのか。

▶丸山市長

令和4年度の公共交通の改編案では、デマンドタクシーの運行日を週3日から毎日運行(平日)に切り替えていきたい。朝1便を8時から7時30分に早める。高校生が通学でデマンドタクシーを利用できるようになる。指定乗降場所は、現行では11か所だが15か所に増やして、利用しやすくする。そういった改編を令和4年4月から開始する。なぜ、令和4年4月からかと言うと、令和4年度内に酒田駅前にミライニという再開発ビルのバスターミナルが完成する。ここをバスが回れるようにする。それに合わせる形で全体の公共交通の見直しをして、バスが運行しないところについてはデマンドタクシーを走らせるという思いでいる。デマンドタクシーを導入するに当たって、いろんな手段を検討したかということだが、公共交通のことを検討しているのが、都市デザイン課なので課長から説明させるが、コミュニティバスのような市がバスを購入して、地域の住民の皆さんが運転や運行管理を行う助け合いの運行のようなものについても検討はした。運転手はボランティアでやる。ガソリン代どうするか、問題は道路運送法にそぐわない。事故があったとき誰が責任を負うのかという責任問題もある。デマンドタクシーはタクシー運送業者が運行管理、車両管理を行う。その方が合理的な判断をした。もう一つはスクールバス。住民の皆さんも乗れるようにすることも検討したが、スクールバスの運行する時間は決まっている。空いている時間を使うということもあるが、スクールバスは使い勝手がよくない。それよりだったらタクシーのほうがドア・ツー・ドアに近い。それから社会福祉法人が送迎バスを持っている。そのバスを使うことも考えたが、法

人で運転手をかかえながら一般の人も乗せる活動をするということは勤務体系上難しい。デマンドタクシーを拡充していったほうが住民のニーズにこたえられる。コスト的にも市全体の公共交通にかける費用を今の範囲内で押さえられるのではないかと考えている。こういったことでデマンドタクシーの毎日運行のほうに切り替えていければと考えている。アイアイひらたへのバス路線については、庄内交通は廃止を前提にするが、るんるんバスのような運行を維持して、お客さんが行きやすい環境に整理できればということに詰めている。

▶高橋都市デザイン課長

今回、平田地区においても公共交通のあり方を考えることになっているが、平田地区の話だけではなく、酒田市全地域の公共交通のあり方を検討している。現在、酒田市には庄内交通のバス、酒田市が運営するるんるんバス、ぐるっとバス、平田るんるんバス、デマンドタクシーがある。もともとは庄内交通のバスが全域で走っていたが、利用者の減少、運行コストがかかる中で撤退せざるを得ない状況が各地域で起きてきた。そこで平成10年に最初にくるんるんバスを運行させた。さらに1便当たり4人乗らないバスについては、随時デマンドタクシーに代えていったという経過がある。バスは大きいので運行コストがかかる。4人以下であればタクシーでも運べるということから、それを順次繰り返してきて、旧酒田市地域では川南の浜中・黒森・十坂地区以外は全てデマンドタクシーになっている。松山地区についてもデマンドで運行している。バスが走っているのは、川南地区と八幡・平田地域となる。川南地区は庄内交通で走っているし、一部るんるんバスも走っているが、その地域の方、特に高齢者の方からは、荷物が多い時とか天気が悪い時にバス停まで動くのは非常に大変。なぜ他の地域はデマンドで動けるのに、自分の地域はデマンドタクシーで動けないのかと要望をされていて、酒田市としても地域の公共交通をこれからも継続して維持していくためにはどうすればいいか考えていく必要があった。その中で一番課題になっているのは運行コスト。酒田市では現在、年間2億3,000万円ほど地域公共交通の維持にかかっている。これが横ばいであればいいが、年々増えている。そこで皆さんの利便性の向上と、より効率化を図るにはどういう方法があるかということで検討を重ねてきた。利用者が比較的多い市街地については、タクシーではなくバスをそのまま運行し、運行経路を拡充する方向で考えている。地域から市街地に入ってくる部分をデマンド交通にすることによって効率化を図る。これから平田地域に説明会で入らせていただく。11月13日の砂越エリアを始めとして、全コミセンエリアで説明会をさせていただく。1人運ぶのに4,000円以上かかっている。皆さんから200円いただいて、かかるコストは4,300円くらい。利用者の声を聞いたが、一番の課題はデマンドタクシーのことが良く分からないということ。だから今のままがいいという意見があった。きちんと説明すると「それならいい。」「家に迎え来てくれるならいい。」「荷物を運ばなくてもいい。」「足が痛くて歩くのがいや。」という人がバスの利用者にいる。利便性を上げてコストを下げられるなら一番いいということで、地域についてのデマンドタクシーの導入を検討してきたところである。既に、川南地区についてもデマンドへ移行することが意思決定されている。八幡地域についても、1コミ振エリアからコミュニティバスを運行できないかと要請があったが、内部で検討してもらった結果、地元で維持していくには、運転手、運行管理を自分たちでやらなければならないので、今はできるが、5年後、10年後できるかというとなかなか難しい。一番大きいのが、公共交通の定時制を保つということ。エリア全体の人が動く時間に使えるのかというのが課題になる。そう意味で言うとデマンドタクシーは、バスとタクシーの合の子のようなもので、家から市内の主要な場所まで500円で行ける。先ほど市長の話にもあったが、今まで週3日運行していたものを平日運行に変える。朝一便を8時から7時30分にすることで通勤・通学で利用できるよう検討している。料金の件だが、私(北俣)がバスで市役所まで行くと700円かかる。乗り換えもしなければならない。それを考えるとデマンドタクシーは500円で乗り換えなしで行ける。砂越だと私の家より近いがタクシーで3,000円くらいはかかる。アイアイひらた線については、今回の改編計画でも維持・継続する予定。ただし、現在、郡鏡地区を回るルートを経支所の前を通るルートに変えさせていただく。郡鏡地区の利用者は1日当たり1人いない状況。詳細を話すと長くなるので、各世帯に11月16日広報で各コミ振で行われる説明会の案内チラシを配る。ぜひ来ていただき説明を聞いていただきたい。

▶高橋美人貴委員

榎橋婦人会の高橋です。防災対策関係の質問1点と要望です。本日頂いたパンフレットも要支援者への対策となる内容のようなのでよく読んでみたいと思うが、数十年に一度起こると言われているような規模の大雨がここ数年は毎年のように集中豪雨に見舞われて不安に思っている。こういったなか、地域住民の避難所運営についてはコロナ対策が十分に行われているのか。また、平田地区には戸別の

防災行政無線受信機が配置されているが、令和3年度で終了となるというお話しをお聞きした。高齢者世帯にとってはたいへん重要な情報伝達の手段となっており、スマホからも警報が流されるとのことだったが、高齢者世帯がとても多い平田地区は、防災ラジオを頼りにしているので、高齢者世帯等についてはぜひ無償配布をお願いしたい。

▶丸山市長

防災ラジオについては市街地の地区の役員には無償で貸与しているが、その他の方々には4,000円の1/3位の助成をして購入してもらっている。戸別受信機が使えなくなる旧3町地区にも防災ラジオで情報伝達出来ればとも思うが、実際には定価で12,000円位するので、すべてを無償で貸与するのは困難と思う。決まった話ではないが、市が購入したものを貸与することを検討しているが、以前購入した方との差が大きくなるように少し負担を求める予定である。現在でも12,000円するものを4,000円で購入してもらっているので助成にはなっているが、既に購入した方とあまり差が大きくなるよう、なるべく安価に行き渡るようにしたいと思う。

コロナ禍の避難所運営については国の交付金等が潤沢にあり、ベッドや間仕切り等の避難所環境を良くするような備品等の購入をして各避難所に配布している。まずは「避難」ということを良く考えて頂き、一箇所に多くの方が集中してしまうことの無いようにお願いしたいと思う。もし二階があれば二階で少しやり過ごし、車の移動が可能であれば車に乗って安全な場所に行く等いろいろな避難方法をご自身で考えて適宜適切な避難をするように普段から準備しておいていただきたい。私たちは、マイタイムラインを準備しておいていただくことを推奨している。危機管理課で力を入れていて、コミ振単位で説明会も行っている。平田地区でも実施していきたいので、その際はぜひご参加いただきたい。酒田市が独自に作成したのが、要配慮者が避難する際の支援制度で、本日の配布資料となっている。ホテル・旅館の宿泊に加えて宿泊施設に行くまでの往路の交通費も対象とした補助である。これは酒田市独自の制度で注目されており、内閣府からも問い合わせがあった。中山間地域の方々にとっては、宿泊料よりも交通費の負担が大きいと思うので、そこがメリットとなっている。

▶前田危機管理課長

市長の強い思いがあってこの支援制度に交通費が加わったものである。全国的にも例がないのでぜひPRしていただきたい。台風が近づいて河川が増水しそうなお電話いただければ宿泊先をご案内する。対象が65歳以上なのは、近年の豪雨災害等で亡くられる方が高齢者の方が多いという点から、まずは躊躇わずに避難していただきたいということである。

防災ラジオの件は実際に現物をお持ちした。本日は機器の調子が悪く実演できないが、特徴的なのは電源を切っても、別のラジオ番組を聴いていても、緊急放送時は自動にて最大音量で鳴るものである。

▶長堀恵理委員

山元で酪農業をしております長堀恵理と申します。現在、小学生の子供がいる関係でやまもと農村交流センターを地域事業のママカフェなどで楽しく活動を行っており、感謝申し上げます。私からは消防本部移転後の平田総合支所庁舎の活用についてお伺いさせていただく。平成30年度の地域協議会で、平田総合支所2階に事務所を置く消防本部が令和3年には新しく防災センターが完成し、移転するという事で、空いた事務室の活用について話し合いを行ったと記憶している。当時は、「日中一人で過ごしている方々が気軽に遊びに行けるようなスペースに活用出来ないか」とか、「天候が悪くとも走り回れる場所があれば子育て世代が喜ぶのでは」、或いは、「美術館的な活用は出来ないか」など色々な提案を市長報告会でさせていただいた。副市長からは「市全体として公共利用施設利用協議会で検討させていただく」という回答をいただいていたが、防災センターの完成まで1年を切ったといわれ、市としての活用策が決まっているようであればお知らせ願いたいと思う。また、活用策を今後も協議会として提案していける状況なのかお知らせ願えればと思う。

▶丸山市長

確かに消防本部が移転すると支所の2階3階が空くわけだが、実は地元の方から石黒光二さんの彫

刻の「型」の展示保管施設としたいというもあり、その件は検討させて頂きたいと回答したが、どういう使い方をするのかという結論はまだ出ておらず、今、検討の最中である。平田総合支所は酒田市のちょうど真ん中であって、公共施設で市民の皆さんが平均的に利用できる施設を配置したほうが良いのではないかと、例えば船場町にある健康センターが海べりにあるので津波が起きたら大変な状況になることと、建物の老朽化が激しいため健康センターとしての活用も良いのではという議論も内部にあることも事実。議論はしていてもまだ結論は出ていないのは実情。使い方について住民の皆さんに聞きますかということだが、たぶん住民の皆さんからは公共としての使い方という話は出てこないと思う。我々行政内部の話として出てくる話だが、松山の新しい旧校舎の活用など、市全体で抱えている公共施設の使い方についてまだ定まっていないものが結構ある。空いたらどう使うかということをとータルでまずは我々が議論をさせてもらって、それでもいい案が無いようであれば一度住民に投げかけて意見も聞いてみたいと私自身は思っている。我々もいろいろな施設を抱えていて、古いのが改築するほどお金をかけられないので、空いているところに移転する方法でいきたい。そういった移転先の候補地として考えられないかと内部で詰めているところ。結論を見ながら最終的に住民に問うかどうかを判断させてもらう予定。駐車場も多いので、市の拠点施設として市民の皆様が活用しやすいものでできればいいかなと思っているが少し時間を頂きたい。せつかくの機会なので、2階の利用について何か案があればお聞きしたい。(→なし)

▶長谷部会長

他に何かありますか。

▶今井さち子委員

民生児童委員の今井です。9月16日でシルバーカーの助成金が終了してしまったことについて、9月で終了するのは早すぎるのではないかと。もちろん予算も伴うので、永遠にという訳にはいかなのかもしれないがこの地域は高齢者も多くいるため、せめて降雪期前の11月、12月位までもつような予算を付けていただけないか。

▶丸山市長

今日は福祉関係の職員がいないため、持ち帰って市長公室長が確認し、平田総合支所長からの回答させて頂きたい。

▶長谷部会長

市長さん、今日は来ていただいて本当にありがとうございました。市長さんが4時間も時間を割いてこうやって皆さんの意見を聞いてくれることは滅多にない状況である。皆さんに申し上げたいのは事業のため市長に予算をお願いすることは税金が回ってきて事業に充てられるわけであり、税金を使うということは公正・公平・中立でなければいけない。それを基本的に皆さんから理解をしていただきたい。市長、長い時間ありがとうございました。

4. 閉 会

▶山口支所長

ありがとうございました。皆様も長時間にわたりまして慎重審議頂きまして誠にありがとうございました。若干宿題を頂きましたので後程回答させていただきます。また、本日実演できなかった防災ラジオは次の機会にご紹介したいと思います。本日の市長とのグループミーティングを閉会とさせていただきます。誠にありがとうございました。お帰りの際はお気をつけてお帰りください。